

ご坊さんだより

2025年
7月

婦人会清掃奉仕

さる6月11日、婦人会定例の清掃奉仕活動では、大雨が降る中でありましたが、本堂をはじめとした諸殿の掃き掃除、拭き掃除を念入りに行いました。

また、清掃後は親睦を深めるため、庫裡にて昼食をいただきました。作業時間や休憩の間でもお話はできますが、やはり改めて腰を据えて共に食事をする時間は格別です。お話が弾みに弾み、あつこい間に時間は夕刻頃まで……。



お内仏報恩講

さる6月20日、午前は「永代経お紐解き法要」をお勤めし、午後には「お内仏報恩講」をお勤めいたしました。

この「お内仏報恩講」は毎年寺町商店街のお店の方々にお参りいただいております。勤行後は共にお斎(お食事)をいただき、別院と商店街の更なる親睦を深めました。

商店街の方々から、別院との歴史や交流の懐かしい話が飛び交いました。



桑名別院列座(職員) 研修旅行

さる5月29日、30日の二泊三日で長崎への研修旅行を実施いたしました。総勢12名の参加者は中部国際空港(セントレア)から早朝の飛行機で長崎へ向かいました。

長崎到着後、活気あふれる長崎新地中華街で昼食をいただきました。長崎ちゃんぽんや皿うどんなどを存分に堪能し、参加者間の交流も深まりました。

昼食後は、世界遺産にも登録されている軍艦島(端島)の観光へ。天候に恵まれ、波の揺れも少なく、通常は上陸が難しいといわれる中で上陸率80%を突破し、島内を見学する事ができました。



2日目は、2台のレンタカーに分乗し、長崎原爆資料館を目指しました。

長崎原爆資料館では、被爆の悲惨さや平和の尊さを伝える展示を通じて、改めて平和への意識を高める機会となりました。資料館見学後、平和公園を訪れ、爆心地に建立された慰霊碑に一回深く黙とうを捧げました。

その後、グラバー園を散策した後、今回の研修旅行の最重要訪問先である佐世保別院を目指し、長崎を後にしました。佐世保到着後、佐世保パーカー発祥のレストランにて昼食を済ませ、佐世保別院を訪問しました。

佐世保別院では、本堂にて武宮信勝輪番によるお話を拝聴し、その後施設の隅々まで丁寧な案内とご説明をいただきました。

特に印象的だったのは、整然と並べられた故人別の納骨壇が美しい納骨堂でした。ここにごとごに供えられたお供えの品々に、故人を思い深い思いを感じました。

また、佐世保別院近くの佐世保港は、現代においても軍艦や大型クルーズ船が寄港する国際色豊かな港であり続けています。船の乗客が下船する際には、佐世保別院の周辺地域で多くの外国人観光客の姿が見られることもあり、その歴史あるたたずまいが国際交流の場として新たな一面を呈しているというお話をもも興味深く拝聴しました。

今回の研修旅行で長崎の深い歴史に触れ、原爆資料館での体験を通じて平和の尊さを改めて胸に刻みました。佐世保別院への訪問も印象深く参加者同士の交流が深まる、心に残る旅となりました。

(事務員 夏川)



「第44回 真宗公開講座」の講演について
連載にて紹介いたします。(一部編集)

南無阿弥陀仏の呼び声 ②

大谷大学 学長
石川県小松市宗圓寺住職

一楽真氏

親鸞におきては、ただ念仏して
弥陀にたすけられまいらすべしと、
よきひとのおおせをかぶりて、
信ずるほかに別の子細なきなり。

【真宗聖典 第二版】七六八頁

「歎異抄」第二章に出てくる言葉で、関東
から来られたお同行に対して親鸞聖人が
おっしゃった大変有名な言葉です。

もちろん言葉聞きとった唯円さまに
よって「歎異抄」という本にまとめられて
いますが、親鸞聖人の語り口そのまま記録
されている、そんな言葉だと思えます。関
東から来られた方は、念仏したら本当に極
楽に行けますか？まさか地獄に生まれな
いですよ。こういうことを言いたかつ
た。でも、親鸞聖人、そんなことにはお答
えになりません。極楽に行けるから念仏し
てるわけじゃないんですね。逆に地獄に落
ちると言われてもやめるわけにいかない。
それが私にとっての念仏だということ
を言っている。そういうお言葉なんです。

つまり、いいことが起こるから念仏する
とか、悪いことが起こるならやめるとか、
そんなことじゃない、私が生きている中
でなくてはならないのが念仏だ、こう
いうことをおっしゃっているお言葉で
す。

これがこの私、親鸞におきては、
「ただ念仏して、阿弥陀にたすけられて
ください」という法然上人のお言葉、
このよきひとのおおせを受け止めて、信
ずるほかに特別なことは何一つありませ
ん。これが「別の子細なきなり」という
言葉で言われています。

法然上人の言葉をこのように受け止め
られたんですね。弥陀にたすけられなさ
いと。阿弥陀仏にたすけられていきな
さという、こういうお言葉であります。

この「たすけられる」ということも
ちょっと注意しておかないといけません
が、私たち、普通「たすける」というと
「助ける」の字を思い浮かべますよね。



その字は、例えば足怪我した時は肩貸
すとか、お金がないので昼ご飯代貸して
ほしいなど、してほしいことがある時に
それを補助するという助け方です。

これはこれで大事です。しかし、阿弥
陀にたすけられる時にこの字を使って
いいのかという問題なんです。これは
自分のしてほしいこと、そこに自分が助
かったということはもう見えています。
でも、阿弥陀にたすけられるというの
は、実は思ってもみないようなたすかり
方なんです。

正信偈の中には、

「拯濟（じょうさい）」

という言葉がでてきます。2字とも「す
くう」という意味ですね。「拯」という
のは、特に水の中に溺れているものをす
くい上げるといって、すくい方です。勝つ
たか、負けたか、得か損かという、そう
いう世間の荒海の中にずっとほりハマっ
ているものを、そこからすくい出す。そ
の時に、「ああ、勝ったか負けたか、得
が損が比べる必要なかったな」という世
界に初めて遇わせていただくような、す
くわれ方なんです。だから儲かって助
かったとかね、そういう救われ方と違っ
たんです。願い事が叶って助かったんじ
ゃない。もうちょっとというと、病気が治っ
て助かることも大事ですけども、お医者
さんでも治せない病気ってというのがあ
ります。そのときにたすかるというの
はどういうことなのか。

病気である自分を最後の最後まで
生ききる道が見つかること

そこに病気を嬉しいというわけにいき
ませんけど、病気を憎むことなく一生を戻
くしていけるという、すくわれ方があるん
じゃないでしょうか。

これが実は「アミタ（阿弥陀）」です。
インドの言葉の意味で、「ミタ」という
のは「見た後に量る」ということです。
「ア」は、それを否定しています。「量れ
ない」というのが、「アミタ」という言葉
の元々の意味なんです。私たちは優れて
いるか、劣っているか、勝ったか負けたか、
得か損か、全部量っています。しかし、そ
れから解放されなさいというのが阿弥陀
のすくわれ方なんです。ですから健康は嬉
しいし、病気は嫌です。その気持ちは変
わりませんけれども、病気のところにも
生きる道が見つかる。



治らないとか、若い時のように動かない
ような体になったけれども、そこにも大事
な人生があるということを見せてもらおう。
つまり、何からたすかるかと言ったら、

量っていることからたすかる

「こうでなきゃならん、ああでなきゃならん」と量っていた…役にたつ命とたたない命というふうにも量っていた…人を量る場合もありますが、自分自身にその物差しを当てはめる場合もありますね。調子よくっている時には、自分には価値があると思いやすいんです。何をやってもうまくいかない、体がいうことをきかない。そうなるべくると、もうこの世にいても仕方ないんじゃないかという。そういう気持ちで、自分の人生を価値のないものというふうにも量ってしまうこと。そこから解放されなさいというのが、阿弥陀にたすけられなさいという言葉の意味です。だから、予定していたことを叶えてももう一つたすかり方ではなくて、思ってもみないような世界との出会い、そういうたすかり方が阿弥陀にたすけられるという言葉なんです。ですから、先ほど申し上げましたが、親鸞聖人は「阿弥陀さんをお願いしたら極楽に行けます」助かった」と言ってるんじゃないんです。この先、どんな地獄のような日々が待ち構えていても、その中を生ききっていくことができる。そういう強い力をいただく。そういうようなくわれ方なんです。ちょっと念のために言いますが、病気を待ち望むとかね、都合の悪いことが起こるのは嬉しいとか、そんなことにはなりません。そうではない。しかし、とれほど気をつけていても思わぬことに出会いますよね。現代ではよく使われるのが想定外という言葉です。予想もしてなかった。でも人生は想定外の連続じゃないですかね。

皆さんどうですか？この中に今まで全部想定内で生きてきたという人おられますか？こんなことに遭うなんてとかね、この年になってまだこんなことも起こるのかとかね。考えてもみなかったことにあわなきゃならん。想定外の連続じゃないですか。



でもこれ、お釈迦様の言葉にかえせば諸行は無常であるということなんです。私たちの予定は立たないです。とれほど計算していても、その通りにいかないのが人生です。では、それはつまらない、価値のない人生かという違いはありますね。いろんなことがあるけれども、それが

誰とも変われない、二度とない、大事な大事なあなたの人生ですよ

ということを教えてください。阿弥陀という世界であります。だから、人と比べて価値付けをするのではないんです。あるいは若い時と比べて、年いた今を量るのはありません。生きていくであろう今。その時がいろんなものに支えられながらここにあるということ。それ自体、価値というなら価値のあることじゃないですかと呼びかけてください

っているのは、阿弥陀のおはたらきであります。ですから、南無阿弥陀仏は阿弥陀さんよろしくちゅう話じゃないんです。阿弥陀さん、お願いしますというすがりつく話じゃないんです。私たちは、量れない命をいただきながら、阿弥陀の世界を知らずに、量ってばかりいるという、その量っていることからの解放、分別していることからの解放、こうでなきゃならんと決めつけていることからの解放であります。

周利槃特

しゅりはんどく

阿弥陀経の中に周利槃特という有名なお弟子がでてきます。その人は物覚えがものすごい悪かったです。でも、あの16人のお弟子の中に周利槃特が入っています。その他は例えば舍利弗というのは知恵第一と言われる人です。木蓮は神通第一と言われる人。

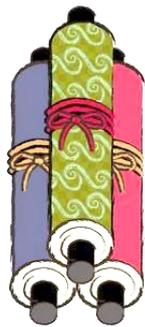
でも、その意味で言うと、周利槃特に関して第一と言つたら、物覚えが悪いことにかけては第一かもしれません。普通は威張れる話じゃないです。では、周利槃特はお弟子になって何を教えられたかと言つても、お釈迦様の言葉も覚えられない。だいたい学びというのは、お言葉を覚えて、それを繰り返していただいくことですから・・・それができないもんだから、お釈迦様は、言葉が覚わらないのなら掃除しなさいと言つて箒(ほうき)を一本与えたこと



いう、そういう有名な話があります。塵を払いましょう、垢を除きましょうと唱えて掃除させたんです。ところが、面白いことが起きるんです。お釈迦様は塵を払え、垢を除けとおっしゃるけれど、塵とは何だろうか、垢とは何だろうかというふうになり、掃除しているうちに考えるようになります。お釈迦様は私に地面を履いてほしかったわけではないだろう、壁の汚れを拭ってほしかった、そんなじゃないやろう。気がついてほしいことがあったんじゃないかというふうになり、だんだんそれを考えるようになります。そしてハッと気がついたのは、私は物覚えが悪いから世間では間に合わない、価値のない人間と言われてきた。お釈迦様のお弟子になつても、お釈迦様の言葉すら覚えられないから、仏弟子としても失格だと思つていた。でも、そうじゃない。それこそが、お釈迦様が取り除けと言われる心の垢だつたと思つんです。量つていたわけですね。やっぱり物覚えの良いか悪いかで、人と比べて自分を価値付けていた。そのことから解放されなさいということがお釈迦様の教えだつたということでもあります。

そういう意味で、教えの言葉は「塵を払い、垢を除く」ということだけでいい、垢を除く「塵を払い、垢を除く」ということだけでいい、それを通してお釈迦様のお心に気がついたんですね。仏の教え、これは言葉であり、言葉を通して、その言葉の奥にあるもの。出遇ってほしい世界。これがある。これは親鸞聖人のお経の読み方からすれば、(周利槃特のことでは、)「塵を払い、垢を除き、まじょう」というのが仏教のお教えの言葉であります。で、お釈迦様がそう言っから掃除しますわって、これは、これお釈迦様の教え聞いたことになりませんか。聞いているように実は受け取れていないのです。

大事なのは、塵を払い、まじょう、垢を除き、まじょうということを通して、あなたの心についている、量るころ、人と比べて価値がないと言っている決めつけ、これから解放されなさいという、そのお心に気がついたことです。だから、お釈迦様のお経、口で教える言葉は千差万別ですよ。相手に応じて。



しかし、言いたいことがいくつもあんなじゃないんですよ。苦しみの心は量っている心、比べている心、決めてつけているその考え方。これから解放されなさいというのは、お釈迦様が一番根っこにあることだということ、親鸞聖人は

ただだいていられるわけであり。だから周利槃特の物語に、阿弥陀という単語が出てこなくとも、阿弥陀に出遇えとおっしゃっていると、親鸞聖人はお釈迦様のお心を受け止められていると思います。これすべてのお経をそんなふうに使え止められたのが親鸞聖人という人だと思えます。阿弥陀という単語が載っているかどうかじゃないんですよ。お釈迦様が一番勧めたのは、阿弥陀の世界。分量で量れない、人間の物差しで値段をつけられない。そういう世界に出遇えというのが、お釈迦様が一番言いたい教えだったんだということです。



周利槃特も喜んでですけど、お釈迦様も喜んでですよ。よく気がついてくれた。その心の垢、初めに申し上げたことでは、私たちが自分の心に垢がついているとは思ってないですね。正しく見ているつもりです。だから人とどうしても意見が合わない、どっちが正しいかというさかいらなければいけません。

だから、自分の生き方を振り返ることができれば、あるいは自分のものの見方をちよつとも見直すことができれば、意見の違う人とも出遇っていくということとは開けてくると思います。でも、自分は正しいと思って突っ走れば、意見が合わない人は邪魔なのか敵になってしまいますね。結局、敵を作る根性こそこの量る心、囚わ

れの心なんです。仏教はそれから解放されなさいというふうに通っているわけなんです。周利槃特の場合は、お釈迦様にお会いになって、それを知らされましたけれども、私たちが直接会えませんが、そういう私たちにちゃんとお釈迦様が一番残そうとした教えは届けています。これが、

南無阿弥陀仏

阿弥陀仏に南無して生きてください、阿弥陀の世界を大事に生きてくださいということ。

まあ、「なむ」というのも、これインドの発音ですから。今インドに行く、まだナムステという言葉がちゃんと通じます。「ナ」というのは、あなたという意味で、「ナムステ」とは、あなたを敬います、あなたのことを大事にします、あなたのお言葉に従いますというほどの意味があり、素敵な言葉だと思えます。会った時も、お別れする時も、朝も昼も晩もナムステという言葉で、お互いを敬い合うという、そういう言葉がインドにはあります。それが実際に生きているかどうかというのは、ちょっとおいとくまね。パキスタンもだいたいぶやこしいことになってますんで。



でもナムステという言葉、すごい大事な言葉です。それと同じように阿弥陀にナムするんですよ。これが阿弥陀を大事にします、阿弥陀という量れない世界を敬って生きていきますという、こういう言葉なんです。これが仏教の一番要(かなめ)ですよということ。これを法然上人は教えてくれたんですね。それに親鸞聖人は出遇われました。ですから、もう一度戻ると、「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」といいますが、阿弥陀仏にたすけられなさい、量ることから解放されなさい、それが大事ですよということ。言われていきます。

だから、いいことへ行くためのお念仏ではありません。都合の悪いことが消えるための念仏ではありません。都合の悪いことを離れていく道がここにあったかということ。そういうことを法然上人に通じて、頷かれていった方が親鸞上人だということ。申し上げたかったわけがあります。



どうしても仏教というと、いろんな教団、あるいは宗派がありますから、その一つのように浄土の教え、浄土真宗の教えも覚えてしまいかも知れません。しかし、親鸞聖人は浄土真宗で、法然上人から教えられた仏教を掲げられ、ここに仏教の要があるということをおっしゃるうとしています。念のため皆さん、これは他の宗派を軽んじようという意味じゃなくて、やるべき教えは何なのかということなんです。それは先ほど例としてあげました周利槃特のことで言えば、言葉とすれば掃除しなさいということだと思っているわけです。しかし、それを通して何に目覚めないといけなからい。

仏のお心ですね

仏意をいただかなかつたならば、言葉尻だけにとらわれているということになります。で、多くの残された經典は、どうしても周りにおられた出家の修行者に語られた經典が多いですから、やっぱり仏教でいうと、どうしても出家して修行するということ、この形にどうもめられてきた部分があるわけです。しかし、そのお心をいただいでみると、一言で言えば、阿弥陀に出遇いなさい、量る必要のない世界、これを大事に生きてください、ここに釈迦様の教えの要があるというふうに法然上人が受け止められ、それに領かれた親鸞聖人が今度は私たちにたくさん書物として残してください、なっているということになります。だから親鸞聖人が自身が比叡山でなかな

仏教の要のところをただけなかつたという、そのことをくぐっておられるということも大きいでしょうね。ですから、親鸞聖人が掲げられる浄土真宗は、比叡山の人にも聞いてほしいんですよ。あるいは奈良の仏教者、これは法然の教えを弾圧した方々ですけども、その方々にも、

「あなた方が願っておられる、傷つけ合うことを超える道はここにありますよ。」

それは阿弥陀に出遇わないといけなからい、これです。」

ということを、力を尽して残していけることになったわけでありませう。これが法然上人、そして親鸞上人お二人を通して、浄土の教えが立教開宗、たてられていったということの意味だということに、私は受け止めていることでもあります。その辺、もう少し申し上げたいのが、法然上人は、念仏一つを、

誰の上にも平等に成り立つ道

として勧められました。

法然上人は吉水というところにおられたわけですが、吉水の小さな草庵におられたわけでありませうけれども、そこは身分関係なし、あるいは性別も関係なし、だから出家か在家かも関係なし、いろんな人が来ておられる。でも、どの人に対しても同じように、念仏ですよと、阿弥陀を念じて生きてくださいということをおっしゃる。でもそれがなかなか、伝統的に修行してきた人には、まずわからなかつたでしょうね。やつ

ば修行したくないから、勉強したくないから念仏一つでいいという安易な道を教えているように見えたかもしれませう。まあ、簡単すぎるということでしょうね。仏教を馬鹿にしているのかというふうに見えたかもしれませう。しかし、今度は法然上人の教えを聞いた人の中にも誤解する人も出てきました。例えば、法然上人は一日六万回唱えておられたそうです。最晩年には七万回。一秒に一回唱えても20時間かかりますからね。一日中ということですよ。いつでも唱えておられます。でも、それを見た人の中には、ああ、やっぱりたくさん唱えないといけないんだというふうに考える人も出てきた。で、それがちょっとたとえ話で言いますけど、七万回には及ばないけれども、一万回ぐらい頑張るぞという。そういう覚悟を持って念仏を始めた人がいるとすんでしよう。何が起るか想像つきませうね。法然上人にはかなわないけど、五百回のお前よりはましだとかね。これどうですか？

念仏と云って、阿弥陀を念じているのは、比る必要のない世界をいただいでいくことが大事なのに・・・。自分中心のものの見方で、価値があるかないとか、決めつけていくことを離れることが大事なものもかかわらず、七万回には負けるけども、五百回より上



だと。それは、念仏は口では申しているかもしれませうが、心では自分を誇っているだけですね。俺はすごい、俺は偉いだろつという話ですね。でもこれ、八百年前のお話じゃないですね。現在でもよく聞かれます。例えば、お念仏、どれぐらの声がいいですか？どう答えたらいいですかね。大声で唱えないといけなわけじゃない。しかし、小さい方がいいという話でもないですよ。

誰が念仏を聞かなきゃならんのか

って話です。同じように言われるのは、回数は何回がいいですか？これは善導大師の言葉では「上は一形を尽し、一生涯の念仏から、下は十念一遍にいたるまで」と書いています。たった一遍でも阿弥陀の世界に出遇うということがあれば、ああ、自分は量ることばかりで生きてきたな、人と比べることがばかりに振り回されていたなと知らされるんです。一遍の念仏がとっても大事なんですよ。でも、それをあんまり言うのと、次は一遍でいいんですよってなつて。だってね、昨日唱えたから今日大丈夫ですよというわけにいかんでしょう。

これは笑い話ですけど、うちのご門徒で、もう「く」なられたんですけども、「いや、住職、明日から3日間旅行に行くんですよ、今日3日分お参りしてきました」と言いました。」どうしたんですか「って聞

いたら、「一日一遍、正信偈のお勧めするのを今日は3回してきました。」と。「うん、それ3日持たないと思いますよ」と一応言いました。帰ってきたら「やっぱりおっしゃった。」住職の言う通りだったわ。旅先でやっぱり女房と喧嘩したんですよ」と。3日もたないです。「ご飯と一緒にね、ご飯3日分、かためてするってないでしょう。僕らは1回1回分しか食べられないです。だから3日分食べたからもう大丈夫です。そんなわけにいかないです。お念仏は仏法の生活ですから、3日分言うければ、もうこれ大丈夫っちゃうわけにいかない。だから今日は今日でいただかないといけない。だから回数も決める必要はないでしょう。声の大きさも、誰かに聞かせるためじゃない。私がいただくためのお念仏ですから。」



もう一つよく聞かれるのは、どんな心境で念仏したらいいですか？っていうんですね。もう意味がわからないために、どういふことですか？って聞いてみたら、やっぱり雑念を払って無念無想で称える念仏が値打ちあるんじゃないですかと言われます。で、ちょっと意地悪で、じゃあ無念無想になってみてから称えてみてくださいと言いましたら、それは無理やうっていうふうに言っていました。雑念を払う念仏の方が価値があるよう

に思うのかもしれないませんが、話が逆です、雑念があるんですよ。量る心が消えないんですよ。いいか、悪いか、得か損か、そういうところばかりで生きているでしょ。そこにお念仏が一声届くところに、ああ、また比べておったなあ。また、とらわれなくてもいいことに振り回されていたなあ、また自分中心の見方で、人を好きか嫌いか、都合のいい人が悪い、分け隔てしていたなあということを感じつかされるのがお念仏なんです。その意味で、

念仏は呼び声である

と言ったのはこれ、親鸞聖人が大事になさるお言葉なんです。

さらには念仏のことを「大行」といったんですね。大というのは優れているとか大いなる行という意味ですが、はっきり言ってしまえば私たちが積み上げるような善根功德(ぜんこんくどく)とか、そういう修行ではないということを言ったわけなんです。だから、仏さんからおはたらきです、南無阿弥陀仏称えるのは仏のおはたらきですよというところを言うために、「大行」という言葉を親鸞聖人はお使いになるんです。これは如来回向というような言葉でも言われたりもします。如来様からこちらに差し向けられて、如の世界からこちら側に届いてきている、そういう行なんです。でもこれは言ってみれば、私たちが日頃、行と思っている、その発想を破る。普通は托鉢すれば悟りを開けますかね、

座禅組めば開けますかね、善根すれば功德つめば開けますかね、こういうふうな悟りというのを考えているかもしれないんですが、それ全部私から仏さんの方に近づいていこうという、こういう発想ですよ。でもこれ、どれだけお経を読んだりに励んだりしても、仏さんに向かっているという証拠ありませんか。近づいている証拠ありますか？



どうやって判断しますかね、これ、親鸞聖人は比叡山時代、本当に悩まれたと思います。みんな悟るために行をしているというんですけども、どうやって量っているかという、例えば私はこの辺まで進んだと思えば、お前よりはましだよやっているわけです。これ、悟りと関係ないですよ。人と比べて自分の方が知識があるとかね、「長年やってきたんだ」とかはわかりやすいですけども、これで悟りに近づいているという証拠ありますか。

また、逆もそうですけど、私は全然ダメだと、仏さんと逆に向いているという人がいます。私なんか悟れるはずないという。これ謙虚なようですけれども、これもやっぱり自分でそういうことをやっていくんだと思っているからですよ。

でも、如来回向の行、仏様のはたらきというのは、どこにいても届いてくる。



これを「如来の行」と

親鸞聖人はおっしゃる。

だから経験年数とか知識の量、あるいは文字が読めるか読めないか、一切関係ない。南無阿弥陀仏というのは阿弥陀仏に南無してください、阿弥陀の世界を大事にしてくださいというはたらきなんです。そういただくときに、ああ、また自分中心の眼で人と比べたり、そして価値付けして争っていたなあということがわかる。だから自分を振り返る眼をいただくことができる。このことをはっきっておっしゃった言葉に

「本願召喚の勅命」という言葉があります。招き呼ぶ、絶対の命令だということ、こういう言葉です。召喚っていうのは我が国に生まれると思え。私の国に生まれる。阿弥陀の世界を生きよ。あるいはさっき言いましたね。阿弥陀というのは分量で量れない命ですから、分量で量れない命を大事に生きてくれよという、こう呼びかけの声だということですね。勅命というのはだいたい中国以来、皇帝の命令ですわ。国王、日本では天皇の命令でしょう。

で、ちょっと付け加えますと、親鸞聖人は天皇の命令で藤井善信(ふじいのよしざね)という俗人の名前を与えられて、越後に流された人です。ところが、それは受け止めたけれども、俗人として生きろと言われて、「はい、わかりました」とは言っていないですね。僧侶の資格奪われたなら僧侶でもない、とはい

え、一人の世俗の考え方に染まって生き
るわけでもないということだ。

「僧にあらず、俗にあらず」

愚禿釈親鸞

と名告って生きられました。ある意味
で、天皇上皇の命令で流されたんですけ
れども、自分は阿弥陀の教え、阿弥陀の
命令に従って生きていくものですよとい
うことを愚禿釈親鸞という名前は言っ
ていると思います。ただ、あからさまに
は言えませぬよ。天皇の命令には従いた
くない。そんなこと言ったら、それこそ
首切られていると思います。一応は受け
止めて、藤井善信として生きようとも、
実際はそれを名告らずに愚禿釈親鸞と
いう名前で生きていかれた。仏弟子とし
て生きただけですね。

まあこの中にもね、肩衣かけてくださ
っていて、法名をいただいておられる方
ありますね。私も法名をもらって、こう
いう格好してるわけですけども。どうで
しょうね。私、一日のうち何時間、仏弟
子として生きていますかね。

僕、結構酒好きでね、夜になるとあっ
という間に餓鬼道に落ちるんですよ。餓
鬼道というのは一杯飲んで終わらない
です。二杯目が欲しくなるんです。三杯
くらい飲むと家族に言われます、もうそ
の辺にしたら。そして、俺は酔っつら
んと。酔っつる証拠ですよ。あつと
いう間に餓鬼道まで落ちます。その時に
南無阿弥陀仏が出てくれば、ああそうや

な、君の言う通りだつて言えるかもしれま
せんが、俺は酔っつらん、まごもやつて言
ってるわけです。酔ってる人間の考えがま
ごもなはずなんです。それ以上やめたら？
と言ってくれる声が受け止められないで
す。だからその時は仏弟子として生きてい
るなんてとても言えないですね。餓鬼道に
落ちているとしか言えないのです。だから
ここに立って喋ってるよ、いつでも阿弥陀
の世界をいただいているように見えるか
もしれませんが、これ仮の姿ですよ。でも
言いたいのはそんな私でも。そんな私だか
らこそお念仏がいるということですよ。例え
ば阿弥陀の世界を教えてもらって、もう二
度と自分の物差しで人を量らないように
なってしまうなら、お念仏もしないで大
丈夫ですよ。仏法もいりませぬ。でも阿弥
陀の世界、大事だつて僕は一応教えられ
て感じてる。それも本当です。でも忘れる
んです……。



もっと端的なことを言つた、(息子がい
ろいろやってくれるから僕も京都におれ
ると初めに言いましたけど)この間も田舎
に帰りましたら、書類がたくさん積んであ
るんですね。ほんで、ちよつとこれ処理し
ていてくれよつて言つたら、住職はお父さ
んやでつて言われました。その途端、スイ
ッチが入って腹立ってね。これ締め切りす
ぎるじゃないか。なんで返事しておいて
くれんかったんや言つたら、ほんならそう
いうふうに指示してきてくれつて言われ

ました。また腹立ってね……。日頃、世
話になつとるなあという気持ちもないわ
けじゃない、本当なんです。でも、自分
の思うように動いてくれないとなつたら
力チツとスイッチ入つてしまふんですよ。
その時も残念ながら自分から南無阿弥陀
仏は出なかつた。なんで思う通りに動か
ない？としか見れなかつたです。後から、さ
つきはちよつと言ひ過ぎたなつて言いま
したけど、その日一日なんか雲囲気悪か
つた。だから本当にお念仏が出てくたさ
らなつと、自分の言つてることや、やつてるこ
とを見つめ直すことすらできないですよ。
危ついでです。

それを親鸞聖人は

悪人だからこそ

たすけられないといけない

とおっしゃつたんです。心が綺麗になつ
て、もう憎しみの心やら腹立つ心がなくな
つたんなら、お念仏いりませぬ。しないで
も大丈夫です。でも、いくつになつてもそ
ういう根性が湧いてくる。だからこそ、そ
の自分のもの見方を中心に生きるの
はなくて、

阿弥陀に生きてくれよ

というのが、親鸞聖人が私たちにお念仏を
勧めてくださる、理由なんです。ですか
ら念仏は何遍称えても、これは

私に対する如来様からの呼びかけ

なんです。自分の思い込みを中心に生きる
んじゃなくて、如の世界、仏が見る世界を

大事に生きてくれよと。一言で言えば、阿
弥陀の浄土。比べる必要のない世界です。
価値というなら、どの存在にもみんな価
値がある。人間だけじゃありません。一切
有情ですから。十方衆生ですから。虫一匹
にも大事な命があるんです。



そのことがはつきりするかね、例えば草
むしり一つでも変わると言いますわ。これ
は僕が偉そうなこと言えませんが、やつぱ
り田舎のおばあちゃんにはるんです。ね。
作物つくるときに、ああ、ごめんね、ごめ
んねつて草をむしっているおばあちゃん
がいたんです。ちよつとどいといつて言
つて。雑草も、ややくいものが出てきた
つていうんじゃない。あんたらも命が知ら
んけど、私はね、あんたらを育てるわけに
いかんでね、ちよつとどいといつてね。虫を
つぶす時もそうです。キャバツや白菜にい
っぱい虫つきますね。取らんならん。この
時にごめんね、ごめんねつて言つてね。
世界の見え方が変わると言います。そつで
ないと、自分中心だつたら全部が邪魔者で
しよう。敵ですよ、それが最後は人間同士
でもそれやるんじゃないですか。生きつ
ていい人と、生きておつたら困る人と、ど
ういうことになつていくんです？そつでお
念仏がいますよつていうことをおっしゃつ
ている。これが南無阿弥陀仏。これ称える
ことを通して、呼びかけを聞いていくん
です。



7月の行事予定



法話(又は講演)のご案内



◇ 人生講座 会費 500円

7月6日(日) 7:00 ~ 8:00

講師 折戸 沙紀子氏
(多気町 法受寺 衆徒)

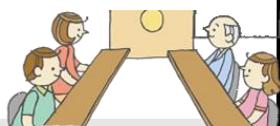
※毎月第1日曜日開講。

8月3日(日) 講師 渡邊 誉氏(多度町 西願寺 住職)

◇ 同朋の会 【正信偈のことばにふれる】

7月4日(金) 13:00~15:00 会費 500円

講師 長澤 隆司
(桑名別院 輪番)



※ 毎月第一金曜日開講。次回は2週目となります

次回8月8日(金) 講師 長澤 隆司(桑名別院 輪番)

◇ 桑名別院法話のつどい

7月13日(日) 13:00~15:00

講師 高科 行氏
(長島町 仁了寺 住職)



◇ 親鸞聖人御命日のつどい

7月28日(月) 13:00~15:00

講師 福岡 裕氏
(四日市市 正福寺 住職)



◇ 晨朝法話

毎朝 7:00 からの勤行後
法話 別院列座(13日、28日の御命日は輪番)

◎ 第59回 暁天講座

1日: 500円 / 5回分: 2,000円 (朝食つき: パン、牛乳)

7月 17日 土

地震でほとんど総てを失って、さあここからです!!

落合 誓子氏

石川町 浄土宗 真宗大谷派 兼光寺 坊主
元 東京ターニャライター

18日 金

三浦依文の願い

安藤 弥氏

愛知県 浄土宗 真宗大谷派 津島中団 月間大学 教授

19日 土

育児をしながらお育ていただく

稲岡 智子氏

岐阜県 浄土宗 真宗大谷派 徳田寺 住職

20日 日

「あの世」と「この世」

高橋 源一郎氏

小説家
文芸評論家
明治学院大学 名誉教授

21日 月

海の日

親鸞聖人の願いを憶う

山田 恵文氏

三重県 四日市市 浄土宗 真宗大谷派 延正寺 住職
大谷大学 非常勤講師

【会場】桑名別院

午前6時30分
午前7時



法要(お勤め)のご案内



◇ 晨朝(おあさじ) 毎日 7:00~

◇ 祥月経 毎日 9:00~

毎月13、28日は13:00~、31日は前日に兼ねます。

また、今月3日、5日、15日、20日は前日に兼ねます。

他の時間に祥月経をご希望の方、
または年忌等、各種お参りを希望の方は
寺務所までお問い合わせください。

◇ お夕事 毎日 16:00~

◇ 御命日のお参り

先門首 13日 / 親鸞聖人 28日

前日: 13:00より速夜
御命日: 7:00より晨朝、9:00より日中

◇ 御歴代御命日

7月11日(金) 従如上人 第18代

25日(金) 宣如上人 第13代

前日: 16:00より速夜
御命日: 7:00より晨朝 兼 日中

◆ 孟蘭盆会(お盆法要)

7月14日(月) 13:00~ 速夜

15日(火) 7:00~ 晨朝 9:00~ 日中

ご先祖や亡き人を偲びながら、いま生きているこの私の「いのち」の事実と、その「いのち」にかけられた深い願いに耳を傾け、自分自身の姿を見つめなおす仏事です。

その他(7月の予定)

▶ 会議について、該当者にはすでにご案内をお送りしております

◆ 仏具のお磨き

7月 3日(木) 9:00~11:00頃まで

◆ 婦人会清掃奉仕活動(桑名組門徒会合同)

7月 9日(金) 9:00~11:00頃まで

◆ 2025年度 第1回 仏華講習会(夏季仕様)

▶ 7月 16日(水) 10:00~16:00頃まで

※ 事前のチラシの日程は誤りです。お詫びして訂正いたします。

▶ 桑名別院 院議会(臨時会) 会場: 間光殿

7月 30日(水) 14:00~16:00頃まで



@106ihhaj

真宗大谷派(東本願寺)
桑名別院 本統寺

住所 ▶ 〒511-0073 三重県桑名市北寺町4番地
寺務所の開院時間 ▶ 平日(土日祝以外) 9:00~17:00
TEL ▶ (0594)-22-0652 FAX ▶ (0594)-22-0681
メール ▶ kuwanabetsuin@gmail.com

